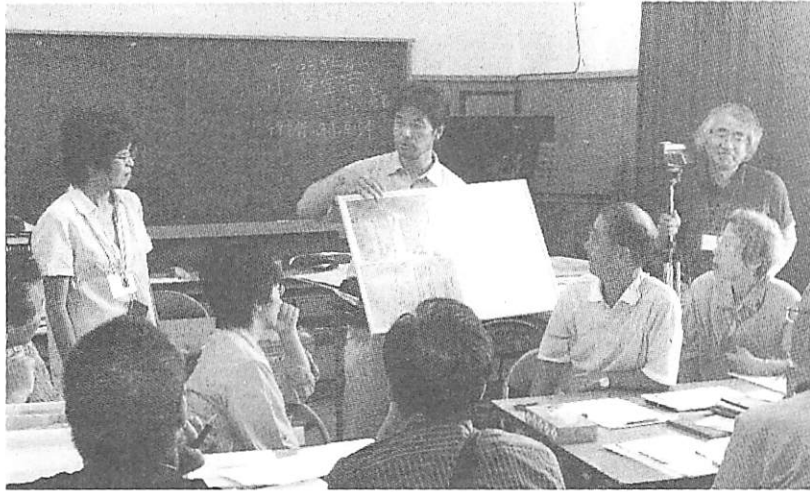


古文書の保存活用学

館山のNPOのヘリテージまちづくり講座開講



文化財保全の重要性を力説する白水氏(中央)＝富崎公民館

館山市のNPO法人安(嶋田博信会長)による房文化遺産フォーラム「ヘリテージまちづくり(愛沢伸雄理事長)と、講座」が開かれている。青木繁(『海の幸』誕生のヘリテージとは文化遺産家と記念碑を保存する会)のことで、文化庁の「地

域の文化遺産を活かした地域活性化事業」の助成を受け、全5回で開催。先ごろ、同市富崎公民館で第2回目が行われ、市民ら34人が参加した。近年、青木繁が滞在した布良の小谷家住宅や南条の小原家住宅から、明治期以降の資料が大量に発見され、近代水産業の発展に重要な関わりがあったことが分かってきた。これらの古文書をどう扱い、整理して調査していくかを学ぶため、地域史料保全有志の会代表を務める中央学院大学准教授の白水智氏を講師に迎え、「漁村資料の保存管理と活用」と題した講座を開いた。

白水氏は、長野県栄村で10年以上にわたり、山村の歴史文化を紐解く古文書の研究に携わってきた。同村は、東日本大震災の翌日の2011年3月12日に付近を震源とする震度6強の地震に見舞われ、甚大な被害を受けた。震災の一月半後に現地入りした白水氏は、次々と解体される廃棄物として処理される古民家や土蔵を目の当た

りにし、文化財の損失に危惧を覚え、すぐに地域史料保全有志の会を発足し、そこに眠っていた文化財の救出活動を始めた。置き場所の確保などの問題を一つ一つ乗り越え、活動報告会などを通して、子どもから高齢者まであらゆる世代の村民に「文化財を守ること」の理解を促した。今では、自治体の協力を得て、小学校の旧校舎を村の文化財保管庫にすることが認められ、将来的に村の歴史と文化の拠点施設にする流れを形成した。

白水氏は、「古文書や古い資料は家族写真と同じ。風景や人々の技術、生活の知恵や人間関係のかたちを残す地域のアルバム。その大切さに気づいたときに、文化がその地域らしさとして次の世代に受け継がれていく。震災後、生活基盤が復旧するだけでは、人は生きていけない。文化が復興して初めて地域の復興につながる」と実感した。白水氏は、文化財保全の重要性を力説した。

講義後には、古文書に接する際の注意点などを解説。実際に明治期の文書類を任分けし目録を作る実習を行った。参加者はその重みをかみしめた様子で、「この話を多くの人に伝え、押し入れの古い資料を捨てないよう広めていきたい」と話していた。

【ヘリテージまちづくり講座 2013】

日付	テーマ
7月23日(火)	オリエンテーション 「東京湾まるごと博物館」
8月27日(火)	東京湾要塞の戦跡バスツアー 木更津・富津方面
9月24日(火)	漁村資料と漁具の保存管理と調査 小谷家住宅
10月22日(火)	佐倉の町並み視察バスツアー
11月16日(土)	館山の歴史建物バスツアー 小高記念館・紅屋・赤門鈴木家
2月16日(日)	シンポジウム 「館山まるごと博物館」

文化庁「文化遺産を活かした地域活性化」事業